

# 秋厚労ニュース

NO1776号

2017年7月6日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

住民目線で

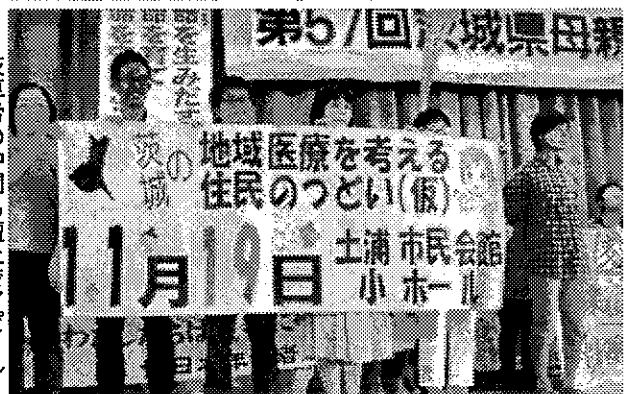
# 医療を語り合う

## 茨城県母親大会

7月2日、取手市で「茨城県母親大会」が開催され、約900人が参加しました。今回、茨城県厚生連の事態をふまえ、初めて「医療の分科会」が発足。住民と病院職員が本音で話し合い、住民集会や住民運動の必要性を確認する場となりました。



約1000人の大合唱



茨厚労の仲間も壇上でアピール

# 住民集会や住民運動の必要性を確認

も指揮に駆けつけました。

## 初めての医療分科会

茨城県母親大会を取手市（取手第一高校）で開催するのは25年ぶり。初めて高等学校を会場に借りた「伝統」の地で、以来このスタイルが県内各地の定番になったそうです。

茨城県厚生連の無茶な経営方針に対して、茨厚労や多くの県民が驚き、あらためて医療について考えた今年。この県内世論を反映して、母親大会にも初めて医療に関する分科会が

## 医療制度変える運動など申し合わせ

これらの疑問に、医療関連OBなどが明快に答えると、そのたびに「へえー、なるほど、そうなんだ」などの声が増えてきます。話し合いの中で、病院職員も住民も困っていること、そ

発足しました。

当日は、この分科会に約40人が参加。最初は医療関係者の「報告」が中心でしたが、次第に住民が口を開きます。「なぜ、あんなに立派な病院が赤字なの？」「どうしてお医者さんが足りないの？」など、日頃の疑問が噴出しました。

の根源は国の医療政策にあること、医療に限らず、食・エネルギー・交通などあらゆる政策が「いのちよりお金優先」になっていること、などがわかってきました。

最後に、「住民目線で、国の医療制度を変える運動をしよう」などの「申し合わせ事項」を確認。これも、一字一句をひねり出し、何回も変更を繰り返し

### 第57回茨城県母親大会 医療分科会の申し合わせ事項

- ① 困っていること(医療従事者・住民)を共有する場をつくらう
- ② 命を大切に地域医療をつくらう
- ③ 住民目線で国の医療制度を変える運動をしよう
- ④ 医療と福祉に予算を使うよう国と県に要求しよう

て、みんなの思いを言葉に紡ぎました。

## 11月に住民集会

今年、11月に茨城県土浦市で全厚労医療研究集会が開催されます。その3日目(19日)の午後、「茨城県住民集会・地域医療を考える住民のつどい(仮称)」を開催する方向で話し合いが進められています。母親大会の分科会は、さながら「住民集会の準備会」のような雰囲気になりました。なお、来る7月17日には、その「住民集会」の第1回現地実行委員会が開催される運びになっています。



初の医療分科会は白熱